

純正日蓮主義

ほんげみょうしゅう
本化妙宗（法華經・本門）



『命のバトンをつないでいく』
三世（過去・現在・未来）を生きる



いってんしかいかいきみょうほう
一天四海皆歸妙法



三世をつなぐ命



『相田みつをさんの詩に「自分の番」と云う詩があります。その中の一部分ですが、過去無量の命のバトンを受け継いで、今ここに自分の番を生きている。それがあなたの命です、それが私の命です。』

今の自分の命から遡れば、十代前では1024人、二十代前では何と百万人を超してしまふのです。遙か昔より命のバトンが繋がれて、今の自分は存在しているのです。自分の命は、多くの命のつながりの中で生まれて来た事に初めて気付くと共に命の尊さを考えさせられます。

無量無辺の命を受け継いでと云うのは、過去から現在・未来へと命が繋がれて行く事を意味しています。それは歴史と云う時間（意識の流れ）です。

この命のつながりに就いて法華経までの沢山の宗旨では、現在のみを中心として説かれています。

しかし、昨日と関係ない全く孤立した今日が在るわけではなく又、今日と無関係の明日も存在しません。

本門法華経にきて初めて、過去・現在・未来と云う三世を見通をした、命のつながりを明かしています。



人の一生を通して、肉体の誕生から心の中の苦しみや悩みが、どの様に成立していくかを順番に説かれたものです。

無明 行

過去の因

過去世に於いて煩惱により迷いの心が身心に起きたその心に依って行いをした。
(無明行の此の二つは過去の二因也。)

識

名色 六入

現在の果

その行い(業)が成就すれば今生に生まれるべき処を決めて心の核が母体に入る。
少し成長し、何となく形が整ってきた。
感覚(眼・耳・鼻・舌・身)と感情と云う心(意)が備わり人間の形になった。



受 触

生まれて来てまず、物に触れる。(母に触れる)
感覚、感情が整えばその環境に依って様々に感受性が強くなって来る。(六歳から七歳)
(識と名色と六入と触と受と此の五つは現在の五果也。)



愛

取

有

現在の因

好き、嫌いと言う物に囚われると云う
執着心が起きて来る。(思春期)
好きな物は自分の物にと云う所有欲・独占欲が湧いて来る。
この偏った考え方(自己中心的)の基に物を手に入れる。これに依り対立や争いが起こり、苦しみが多様な形で



襲いかかって来ます。(愛と取と有との三つは現在の三因也)

生しょう

未来の果

前世に於いての行為が魂に記憶しその心に叶った
両親を選んで生まれて来る。

老・死ろう

年を取り、様々な苦楽を感じながら死に至る。

(生と老死のとの二つは未来の両果也)



人間はこの世に生を受ければ、聴て、老いて死を迎えなければなりません。

人間が死を恐れたり、不安になるのは、肉体が活動している事のみをこの世限りの人生だと錯覚しているからに過ぎません。

肉体は滅しても心は三世を生き続けます。

この十二因縁による煩惱(惑)に依って行動(業)して苦しむ。(果)これが生まれ変わり死に変わり繰り返されていきます。



つまり、人間の本能(睡眠欲・食欲・男女欲)に根ざした、原始的人間の活き方と云えるでしょう。これを三世兩重の因果

(業感縁起)と云います。

因として同じものを以ていても、縁そのものが私達凡夫はある程度決まっているから、因縁が結び付いたら三毒(貪・瞋・痴)だけが働いてしまいます。

ところが、佛教がこの三毒と云われる根本煩惱を根源的に否定し排除してしまうものであれば、人間の拒否であり人生の破壊であります。

自他の共存共栄の為の貪・瞋・痴の三毒にブレーキを掛けるそれが開顕浄化する事です。

何を信じて生きていけば良いか？ 自我||自己意識の根源は何に基づけば良いか？

私達の命の根源、それは私達がこうして生かされている生命の底にあるものは、「如来壽量品 第十六」で明かされる

「佛と同じ無始からの命」なんだと。



つまり、私達の生命は佛の命であり、私達の命こそ佛の命なんだと云う事を、自ら自覚していない事を迷いと云います。

日蓮聖人、十二因縁御書に曰く

「凡そ成佛とは、我身を知るを佛に成るとは申す也。」



成佛を知るとは我身即ち本よりの佛と知るを云ふ也」
自分の心の故郷は妙法蓮華経のお題目であります。

私達はその妙法蓮華経を飛び出して彷徨い末法の時代迄流転して来てしまいました。

この妙法蓮華経こそが命の根源である事を示される為に、生まれて実践して見せて下さった方が日蓮聖人であります。

日蓮聖人の教のままのお題目（妙法蓮華經）をつないでいく事が功德を積む事になります。

人はその人生に於いて仏法に依る正しい善業を積み重ねていけば、次の世では後生善処となります。

南無妙法蓮華經

合掌



毎月第三日曜日に、法華經の法話会を行っています。
聴聞は、どなたでもご参加下さい。

合掌



妙法から生れ出て又、妙法に還る法華經の心をそのまま廟墓した姿です。



大阪府八尾市服部川933 安國寺TEL (072)941-8201

<http://www.eonet.ne.jp/~renshou-douju/>

パワースポット「一塔合安 妙宗大靈廟」で検索お願い

(本化妙宗 安國寺 知恩報恩推進委員会)